

報道資料

2009年3月10日(火)

## アイフルホームの『太陽光発電搭載の電気自動車対応住宅』 「JAPAN SHOP SYSTEM AWARDS 2009」最優秀賞を受賞

株式会社トステム住宅研究所  
アイフルホームカンパニー

トステムやINAXなどの事業会社を擁する株式会社住生活グループ傘下で、住宅FCを全国に展開している株式会社トステム住宅研究所 アイフルホームカンパニー（住所：東京都江東区亀戸1-5-7 / 代表取締役社長 兼 アイフルホームカンパニープレジデント：大竹俊夫）は、2008年11月22日（土）よりアイフルホームFC加盟店にて販売している『太陽光発電搭載の電気自動車対応住宅「家+庭生活（かていせいかつ）CH08」』が、この度、経済産業省管轄の財団法人店舗システム協会（東京都港区）主催の「JAPAN SHOP SYSTEM AWARDS 2009」において、かつての日本家屋が持っていた採光や通風を活かした坪庭などの省エネルギー技術だけでなくCO<sub>2</sub>排出を大幅に削減する太陽光発電システムや「家と電気自動車」を融合させた最先端の新エネルギー技術を組み合わせた点が先進性に優れていると評価され、**最優秀賞を受賞しました。**



最優秀賞受賞商品「家+庭生活 CH08」外観写真

## JAPAN SHOP SYSTEM AWARDSとは

流通産業を中心軸に、「生活者視点」「コミュニケーション接点」「発想転換」「新産業創出」「ビジネスデザイン」といった視点で、生活者と生産側の接点となるテクノロジー・新製品や新サービスなどを表彰する制度です。



本格的な情報社会を迎え、あらゆる産業が劇的に変化しています。とりわけITやネットの普及が流通産業全体に本質的な革新を促している状況にあります。近い将来、全てが繋がるユビキタス・ネットワーク社会の到来を意味しているからです。このような時代だからこそ各産業の役割をもう一度とらえ直し、再確認する必要があります。今、ユビキタス・ネットワーク時代に勝ち残る産業は、どのように新しい発想や新しい技術を活用すれば多様な生活者のニーズやウォンツに対応できるでしょうか。新発想の技術・商品やサービスなど、先進的なビジネスデザインや事例を表彰し、普及啓蒙・社会の向上に貢献することを社会的使命と考えております。

(財団法人店舗システム協会の「JAPAN SHOP SYSTEM AWARDS」パンフレットより)

トステム住宅研究所(アイフルホーム)では、私たちの生活に深く関わる問題(少子高齢化・教育・資源エネルギー・地球温暖化・廃棄物・生物多様性・地域経済の問題や、生活者が豊かさを享受できない問題)を改善・解決するために家が出来る事を考え、日々家づくりに取り組んでおります。

そこで、特に資源エネルギーや地球温暖化などの問題が深刻化する中、“家での生活”だけでなく“自動車”から排出されるCO<sub>2</sub>も含め、家庭の暮らし全体でCO<sub>2</sub>をゼロにする「CO<sub>2</sub>ゼロライフ」の実現を目指して、日本人の思想・知恵や最新技術を取り入れた電気自動車対応のモデル住宅を東京都内(葛飾区高砂)に建築。そして、昨年7月に「クールアースモデル住宅」として発表したところ、マスコミや自治体、研究機関などから多大な関心と評価を頂き、一般ユーザーからも販売の要請を頂きました。そこで、日本人の思想・知恵と最新技術を取り入れた太陽光発電搭載の電気自動車対応住宅「家+庭生活 CH08」として昨年11月より販売しております。

また、電気自動車対応のモデル住宅は、東京工業大学、三菱商事、ジーエス・ユアサパワーサプライなどとの共同研究開発プロジェクト「RE - EVプロジェクト」(Renewable Energy for Electric Vehicle Project=再生可能エネルギーを利用した電気自動車向けインフラシステムの研究プロジェクト)において、電気自動車のユーザー宅を想定した実験住宅としての役割も担っています。

### (審査員の選評)

「次世代ホームモデルは、新しいエネルギーとの関係性がポイントになると考える。その中でトステム住宅研究所(アイフルホーム)の提案を得たことは大変タイムリーであり、21世紀のパラダイムへのシナリオを感じる。ライフスタイルの中心的なものを引き受ける新しいホームグラウンドのデザインは、これから様々な側面を持って新しい流れを作る舞台であることを認識したい」

2009年3月5日(木) 東京ビッグサイトにて、「JAPAN SHOP SYSTEM AWARDS 2009」の表彰式が行われました。

## 太陽光発電搭載の電気自動車対応住宅「家+庭生活 CH08」商品特長

### 日本人の昔からの思想・知恵の採用

町屋の暮らしの環境装置に学んだ「地熱を活かした土間」「冷却効果の坪庭」、庭を機能的に配置した農家に学んだ「季節の野菜やハーブを育てて楽しむ家庭菜園」「緑化で冷却効果のあるルーフガーデン」「坪庭の露天風呂」、おもてなしを大切にする茶室のあり方に学んだ「にじり口や坪庭のあるタタミ室」、職住一致の商家の暮らしに学んだ「(自宅での)ショップ」などの優れた環境性やコミュニケーション性を取り入れています。

### 新エネルギー技術のポイント

CO<sub>2</sub>フリーの太陽光発電(6.48kw システム)を搭載し、ガレージ内に設置した200Vのコンセントで電気自動車への充電(蓄電容量 16kwh の三菱自動車製電気自動車「i-MiEV」の場合約7時間でフル充電)が可能です。なお、コンセントには充電タイマーが組み込んであり、タイマーを夜間に設定することで、CO<sub>2</sub>排出が少なく、且つ電気代の安い深夜電力の充電が可能になります。

### 省エネルギー技術のポイント

下記のような住宅としての省エネ(CO<sub>2</sub>削減)化を図っています。

1. 熱の活用:蓄熱壁、蓄熱土間、ヒートポンプ式給湯器、断熱遮熱としての遮熱 Low-E ガラスやバルコニー緑化、排熱のための温度差換気
2. 光の利用:太陽光の有効取り込みによる照明電力削減
3. 水の利用:雨水再利用のための雨水タンク設置
4. 風の利用:夏季の風の流れを考慮した排熱
5. 新技術 :LED照明、電気自動車を活用した家+電気自動車によるトータルのCO<sub>2</sub>削減

この件に関するマスコミの方からのお問い合わせは下記までお願いします。

(株)トステム住宅研究所

電話: 03 - 5626 - 8251

広報担当: 山口まで